わが校の紹介

「自主・創造・実践」をスローガンとして池田草庵先生に学ぶ学校

養父市立青渓中学校
校長　松下薫範

「山脈さやかにゆく水と但馬
にかおる先賢の名に負うわれら
青渓中」

と校歌に詠っているように、多くの門下生を世に送った偉大な教育者・池田草庵先生の生誕の地を意識し、草庵先生に学び、誇りとして自信を持って学習していこうとする意気込みが強い地域です。

その表れとして、昭和32年の設立当初から特色の多い学校としてスタートしました。

その一つめは、教科教室制を取り入れた斬新な校舎の建築でした。しかも町予算以外に、多くの地元民の労力奉仕のもとで建築されています。

二つめは、草庵先生の教えからの「作物が育てば、私たちも伸びる」をスローガンとした生産活動です。広い学校農園が提供され、植え付けから世話、収穫と販売といった、すべての体験活動が今も展開されています。

三つめは、現在も続く生徒会での「無人販売の購買部活動」です。

「良心を確かめ合おう」との看板が掲げられ、問題なく運営がされ続けていることは誇り得るものです。

ある時代にはテレビ・ビデオを活用した視聴覚教育での先進的な実践など、時代を先取りして取り組む伝統を持ち続けている学校です。

（生徒の目標）

■何事にも進んで取り組む

■自分の良さを生かす

■自らを鍛え、高める

以上の3点を大きな目標として、学習や生徒会活動、部活動などに、全校生が強い自覚のもとで中学校生活に取り組んでいる学校として誇りに思います。

地域や保護者の願いを受け止め、理解や協力をいただき愛される学校経営に努めてまいります。

自然学校が始まります

市内の小学生5年生が、1週間家庭を離れて活動いたします。

▼養父地域小学校
（養父・広谷・浅野・建屋）
場所／石ケ堂古代村・円山川公苑
期間／5月23日（月）～28日（土）

▼大屋地域小学校
（口大屋・大屋・西谷・南谷）
場所／あけのべ自然学校・円山川公苑
期間／5月23日（月）～28日（土）

▼関宮小学校
場所／兎和野高原野外教育センター・竹野浜体験休暇村
期間／5月16日（月）～21日（土）

▼八鹿地域小学校
（高柳・八鹿・小佐・伊佐・宿南）
場所／兎和野高原野外教育センター・円山川公苑
期間／5月30日（月）～6月4日（土）

海や山で貴重な体験をします

まちの文化財⑪

～鉢伏高原のミツガシワ～

ミツガシワは、標高790㍍の清水がそそぐ鉢伏高原の湿地に生育しています。兵庫県下でただ一つの自生地として、昭和57年に兵庫県指定文化財となりました。

湿地は東西90㍍、南北70㍍の規模で、水ゴケなどの植物が泥炭となって、スポンジのような土層を作っています。オタカラコウも生育しています。

ミツガシワはリンドウ科に属する多年草で、関東地方から北側の寒い山地に多い植物です。3枚の葉がカシワの葉に似ていることからミツガシワと言います。高さ20㌢ほどの小さな植物です。白い花が5月に咲いています。

鉢伏高原では雪がたくさん降って気温が低く、冷たい地下水が長く保存されます。こうした良い気象条件が重なって氷河期の植物が生き残ってきました。

しかし、水不足による大きな環境の変化で、ミツガシワの生育が弱っています。水深が浅くなり、カサスゲやミゾソバが繁殖しました。水温も高くなって平成10年には10平方㍍まで生育範囲が減少し、絶滅寸前になりました。

そこで、南但馬の自然を守る会や関宮町教育委員会が緊急処置として、カサスゲを抜き取って、水深を保つようにしました。その結果、生育範囲が広がってきましたが、このままではいつか絶滅すると心配されています。

ほかにも養父市には、氷河期の植物が自生しています。大屋町加保坂のミズバショウ、氷ノ山の古生沼にあるエゾリンドウなどです。

大山や大峰山など関西には著名な山がありますが、氷河期の植物を守り育てているのは氷ノ山山系だけです。

（社会教育課）